

豊明希望チャペル礼拝

2026/7/12

「神の国の一番小さい者の幸い」

ルカの福音書 7：18～35

今日の箇所は、バプテスマのヨハネが、弟子を遣わして、イエス様に、あなたは、神から遣わされておいでになったメシヤですか？それとも、別の人ですかと尋ねた場面です。



(1440『キリストの洗礼』ピエロ・デラ・フランチェスカ)

イエス様が聖書に登場したとき、ルカは、彼が、イエス様の母マリアの親戚であると指摘しています。(ルカ 1：36 マリアに「・・・あなたの親類エリサベツ・・・」)

マタイの福音書の記事に従えば、このいわゆるバプテスマのヨハネは、あなたがメシヤかと問われ、私のあとにこられる方がその人だと言いまして、イエス様が、ヨハネの洗礼の列に並んだとき、私は、あなたに洗礼を受ける資格がないといったことから、ヨハネがイエス様を、メシヤ、キリストであると考えていたことが示唆されます。ルカの福音書では、実は、私は資格がありません云々(うんぬん)の、そこらへんが、省略されています。そこを開いたときに、その点に私は言及したかと

と思いますが、私は(私たちは)今日のここの記事を知るだけに、少しばかり、不穏な空気を感じたのだと思います。それはあえていえば、ルカの意図でもあるように思います。

今日の場面は、このヨハネが、時の権力者であったヘロデによって捕らえられて、牢獄に入れられて(その後、処刑される・・)、その牢獄から(マタイのみの言及：おそらく、ルカは、その事実を前提にここで語っていると思われる)、弟子を遣わして尋ねた質問の内容となっています。

今日の箇所が、教会で、牧師などが語るとき、多くはその題に、「ヨハネのまよい」とか、「ヨハネのつまずき」とかの題をつけます。イエス様をメシヤだと示しているはずのヨハネがつまずくはずがないという考えもあって、迷っている弟子達に、イエス様がメシヤだという確信を持たせるために、あえて、自分で確かめてみると送ったのではないかという人もいますが、少なくとも、今日のところの書き方は、最初の 19, 20 節で、「**おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか。**」という質問をあえて二回記すことで、この問が、少なくとも、そんな弟子教育のついでなの？質問ではなく、ヨハネが、明日処刑されるというような場面での、極めて深刻な、言わば、自分の信仰が立つか倒れるかの、極めて深刻な質問であったことが示唆されているように思います。

今日の箇所を、私たちは、どう読むのか、何をルカは私たちに悟れ、信じよと言っているのかを思うとき、私たちの信仰生活、信仰人生にも起きる、一番大事で、深刻な問が、ここで、問われているのだ、あなたはどうかと問い悟れ、信じよと言っているのであろう事を、示されて行ければと思うのです。

今一度、ヨハネが獄中からヨハネの弟子達を遣わして問うた問いを確認します。

「7:18 さて、ヨハネの弟子たちは、これらのことをすべてヨハネに報告した。すると、ヨハネは弟子たちの中から二人の者を呼んで、7:19 こう言づけて、主のもとに送り出した。「**おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか。**」7:20 その人たちはみもとに来て言った。「私たちはバプテスマのヨハネから遣わされて、ここに参りました。『**おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか**』と、ヨハネが申しております。」

私たちの信仰生活において、「**おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか。**」と、問う場面があるとすれば、それは信仰の危機の時だと思います。

私は、クリスチャンとなったが、間違いだったのではないか。キリストを信じてもよかったのだろうか。もっと別の誰か、釈迦とか、他にも色んな神々の選択肢があるじゃないか、なぜ、キリストにしたのか・・

そう考え始めたときから、もはや、信仰は離れ始めている、信仰を捨てる準備は出来ているといってもいいのかもしれないとさえ思います。

そのことを、私たちの問題として、しっかりと黙想し、考えたいので、長い箇所ではありますが、まずは、どうなったのか、イエス様のお答えはどうだったのか、

御言葉を追いながら、教えられていきたいのです。

まず遣わされたヨハネの弟子へのイエス様の答えのすべては、これです。

「7:21 ちょうどそのころ、イエスは病氣や苦しみや悪霊に悩む多くの人たちを癒やし、また目の見えない多くの人たちを見えるようにしておられた。7:22 イエスは彼らにこう答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツアラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。7:23 だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」

ザッと見わかるのは、私がそれだとも、違うとも答えていないということです。

しかし、23 節で、「つまずかない」ようにと勧め、それが出来たら幸いだと言われることによって、イエス様をメシヤだと信じられないことは、それは人生のつまずきだし、信仰の大きなつまずきである事を警告し(要するに、私をメシヤだと信じるべきだと・・・)、また一方で、それは、あなたが決断しなければならない、あなたの応答の責任だと言っているように思います。死人が生き返る事を聞きながら信じられていないヨハネ、この姿は、そもそもの人間の疑い深さ、信仰など持てない人間の弱さ、姿を示しているということです。ヨハネほどの人でも、これほど明確な奇跡とその証明がされながらも、信じ切れないものであること、それは、すなわち、すべての人間が弱いこと、信仰など、およそ持ちきれない存在であることが、警告されているように思います。それは、このあと、ヨハネが、あらゆる人間、人類の中で、もっともすぐれた人間である事をあえて、言うことによって、強調されます。

「7:24 ヨハネの使いが帰ってから、イエスはヨハネについて群衆に話し始められた。「あなたがたは、何を見に荒野に出て行ったのですか。風に揺れる葦ですか。7:25 では、何を見に行ったのですか。柔らかな衣をまとった人ですか。ご覧なさい。きらびやかな服を着て、ぜいたくに暮らしている人たちなら宮殿にいます。7:26 では、何を見に行ったのですか。預言者ですか。そのとおり。わたしはあなたがたに言います。預言者よりもすぐれた者をです。7:27 この人こそ、『見よ、わたしはわたしの使いをあなたの前に遣わす。彼は、あなたの前にあなたの道を備える』と書かれているその人です。7:28 わたしはあなたがたに言います。女から生まれた者の中で、ヨハネよりも偉大な者はだれもいません。・・・」(最後の一言はあえて省きます・・・)

そして、

ヨハネは、預言者だとイエス様は言われます。そして、預言者、イザヤであれ、エリヤであれ、モーセであれ、どんな預言者よりも上だと言います。

そのことを言うことによって、少なくともルカは、その預言者のトップに立つような人間。女から生まれた者、すなわちすべての人類の中で最上だという人間でも、このように疑うのだと言うこと、それほど、キリストを信じることは、むづかしい、信仰を持つことは不可能に近いことを印象づけるのです。

さて、28 節の最後の一言をあえて、読みませんでした。ここまで見てきたように、最上の預言者、女から生まれた人間で最上の人間でさえ、キリストを救い主だと信じ切れないという極めて深刻な人の心、状況だということを言うことで、最後のことに一言は、天地がひっくり返るような驚きを感じるのです。

最後の一言を読みます。

「しかし、神の国で一番小さい者でさえ、彼より偉大です。」

え、神の国の小さい者とは？天使の事？と思うでしょうね。これは、今、目の前にいる、ペテロやヨハネやヤコブや、弟子達のことを言っているのです。そして、特にここまで、イエス様を信じて癒され、信じた、ガリラヤ人たちのことを言っているのです。

学びは多くはない、聖書についても、それほど読んでいないかも知れない。あれこれ比較しながら、考えに考え抜いて、釈迦でもない、どんな神々でもない、どんな権威でもない、どんな知識でもない、素直にイエス様を信じ、十字架の贖いによって赦され、神の子の特権を信じて受け取って、神の子とされた、神の国の一委員とされたあなた方こそが、正しく悟り、正しく信じ、来たるべき方メシアに出会っているのだと言っているのです。

この 29 節は、そのことをさらに強調するように、ヨハネはもとより、他の聖書の専門家、この世の宗教的指導者、権威を持つ者をあえて並べて、あなた方、イエス様を信じる者、キリストを信じて罪赦され、その信仰によって神の子とされた者、また、これ以降の時代、洗礼、バプテスマを受けるクリスチャンのこと、すなわち、私たち、イエス様を信じて、洗礼を受けてクリスチャンとなった、私たちの事を心に思ってくださりながら、すなわち、神の愛と恵みによって救われた者が、それ以上の存在だ、存在と神に見られている、評価されていることを付け加えるのです。一応読んでおきます。

「7:29 ヨハネの教えを聞いた民はみな、取税人たちでさえ彼からバプテスマを受けて、神が正しいことを認めました。7:30 ところが、パリサイ人たちや律法の専門家たちは、彼からバプテスマを受けず、自分たちに対する神のみこころを拒みました。7:31 それでは、この時代の人々を何にたとえたらよいでしょうか。彼らは何に似ているのでしょうか。7:32 広場に座り、互いに呼びかけながら、こう言っている子どもたちに似ています。『笛を吹いてあげたのに、君たちは踊らなかった。弔いの歌を歌ってあげたのに、泣かなかった。』7:33 バプテスマのヨハネが来て、パンも食べず、ぶどう酒も飲まずにいと、あなたがたは『あれは悪霊につかれている』と言い、7:34 人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『見ろ、大食いの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ』と言います。7:35 しかし、知恵が正しいことは、すべての知恵の子らが証明します。』」

素直にイエス様を信じた人たちが、この世で、最低の人間とされている取税人でさえも、イエス様を信じてごく普通に、教会で洗礼をうけてクリスチャン生活を送っている一信徒が、ヨハネはもとより、パリサイ人、律法の専門家以上だと言っているということだと思えます。

ここでは、暗に、いまだに神の恵みを受け入れられず、信じ切れず、みけんにしわ寄せ、自分の罪と戦い続けてばかりいて、一步もそこから抜け出せないバプテスマのヨハネの弟子と、神に出会い、すなわちキリストに出会い、すでに多くの奇跡をこの世で体験し、イエス様に従って歩むことが喜び以外でない、ハッピー以外でない、そして、悔い改めた大酒飲み、収税人、罪人も、ハッピーになって、賛美しながら従っている、信仰の喜び、イエス様を信じられることの喜び、神の子とされた喜びで、毎日がハッピーである信仰者達とを比較しているのです。

子供たちが、せっかく楽しく遊んでいるのに、僕は一緒に遊べない、あいつらバカなんだ、考えが浅くて、何なら、踊りか祭りの神さまか何かに洗脳されているのではないかと批判し、もっと人生を深刻に考えなくちゃと信じる事より、疑うこと、ゆだねる事より、警戒することを信条に生きていることが、かえって、おろかであることを、神の赦しと恵みが目の前に提示されているのに、神が目の前におられるのに、手を出して、私の手を取れ、私に従って歩めと言われているのに、素直になれない、子供たちのようだと、イエス様は子どもの例をあげているのです。

長い箇所でしたが、ここまで見てきました。ルカは、私たちに、素直になりなさい。イエス様を信じなさい。イエス様は、あなたのすべての課題と、問題を解決し、あなたに、「**神の国で一番小さい者でさえ、彼より偉大です。**」という神の子どもの特権を、すなわち永遠の命を与えて下さいます。と言っているのです。

この週の歩み。疑うことではなく信じ、悲しむのではなく喜び、そして感謝し賛美する歩みを、この週もここからはじめさせていただきます。